

指標名: 医療処置を必要としない児のルーミングイン実施者の目標達成件数

背景

NICU・GCUに入院となる児は、出生直後から母子分離を余儀なくされている。両親は、オムツ交換や授乳、沐浴などの育児手技を面会時間に獲得している。しかし、面会時間だけでは、児に必要な育児の1場面に限られているため、児との生活の24時間のイメージがつきにくい現状がある。小南は、NICU・GCUでの母児同室は、育児へのマイナスイメージを体験しながら、面会を重ねて構築した児との関係性を更に深める事ができ、待ちに待った我が子との生活をプラスにするための時間¹⁾としている。

NICU・GCU入院児とその家族がルーミングインを実施することで、児との生活のイメージやリズムを学び、育児の自信に繋げることが期待できる。

現在も、振り返り用紙を使用し、家族との目標共有と実施後の振り返りを行っている。より患者家族の個性に沿ったルーミングインを実施することができるよう、現在行っているルーミングインの目標や支援方法を見直し、目標や支援内容を医療者・家族で共有することで、家族の満足度向上を図り、育児不安軽減のための支援に努めたい。

データの定義

〈定義〉

ルーミングイン実施前後の目標達成度の比較を行い、ルーミングイン実施の評価を行い、目標が達成した件数

ルーミングイン→退院前に1泊～2泊、C5病棟やGCU母児家族室で実施する母児同室。

〈対象〉

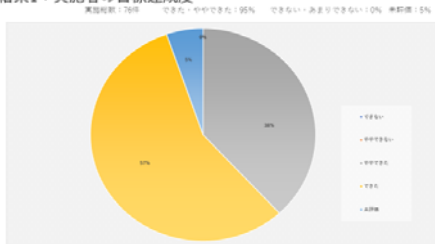
母が産科病棟・産院を退院されており、退院先が自宅または実家となる、医療処置を必要としない児

2018年度のデータ

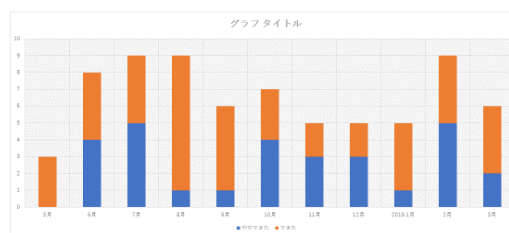
GCU	2018年										2019年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ルーミングイン件数	12	3	8	9	9	6	7	5	5	5	9	6	
累計	12	7.5	7.6	8	8.2	7.8	7.7	7.3	7.1	6.9	6.2	7	

*累計＝合計÷足した月数

結果1: 実施者の目標達成度

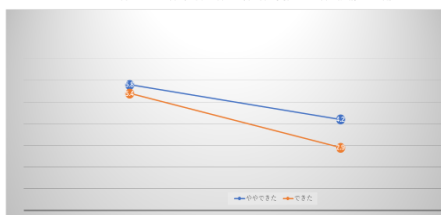


結果2: 月別 「できた」「ややできた」 の件数



結果3: できた群・ややできた群での不安度の変化 (平均)

ややできた群: 29名 (下降26名・上昇2名・変化なし1名)
 できた群: 44名 (下降40名・上昇2名・変化なし1名・記載なし1名)



参考データ

2018年度より開始のため、データなし。

評価

5月より振り返りシートを更新、8月よりテンプレート入力を開始し、実施者(母)の不安度や達成度を数値化したことと、院内でルーミングイン時の様子を共有できるようにシステムの変更を行なう事ができた。年間実施件数は76件であった。目標達成の指数は、「できていない」「あまりできていない」「ややできた」「できた」の4段階に設定しており、実施者全員が、「できた」・「ややできた」との評価がされていた。目標値の月5件以上は、5月の実施件数が5件に満たなかったため達成されなかったが、その他の月は達成できている。

「できた」・「ややできた」での割合は「できた」:57%、「ややできた」:38%であった。

目標達成が「できた」と感じられた実施者のほうが、退院後の不安や心配に関する数値が低下していることがわかった。今後はより充実した介入を行い、「できた」と自己評価ができる実施者を増やしていくことが重要であると考える。しかし、用紙未記入やネガティブな感想もあり、そこへ踏み込んでいくことも今後の課題とする。

参考文献

小南伸子.退院前母子同室を短期で効果的に実施するには～効果の検証からみえてきたこと～.日総研こどもと家族のケア, 2017年, VOL12, no1, P.58-62.